

令和5年度第3回豊田市議員報酬等及び特別職の給料に関する審議会会議録

●日 時 令和5年11月27日(月) 午後2時00分～3時30分

●場 所 南73委員会室

●出席者 ・出席委員6人

桑原 英明 (学識経験者 中京大学 教授) ※会長
藤嶋 伸一郎 (豊田商工会議所 副会頭) ※副会長
鈴木 雅和 (豊田市区長会 理事)
千葉 晃嗣 (豊田市ボランティア連絡協議会 副会長)
早川 信 (あいち豊田農業協同組合 代表理事専務)
和形 寿賀子 (豊田市ファミリー・サービス・クラブ 会計)

・事務局

村上 光彦 (総務部長)
水野 智弘 (議会局局長)
松本 美恵 (議会局総務課長)
板倉 壮吾 (議会局総務課担当長)
岸本 喜文 (議会局議事調査課担当長)
杉浦 智文 (人事課長)
原 一仁 (人事課担当長)
星野 香寿美 (人事課主査)

● 傍聴人 0人

◎議事

1 前回審議会の会議録確認

(会 長)

前回審議会の会議録について、事前に事務局から届いていると思うが、内容の訂正や確認などあれば意見をいただきたい。

—— 委員より一か所訂正あり ——

(会 長)

訂正して会議録は公開させていただく。出席した委員氏名も公開となるので了解いただきたい。

2 市議会議員の報酬改定について

(会 長)

事務局より追加資料の説明をお願いしたい。

(事務局)

人口規模類似 40 万人から 50 万人の中核市との比較

以前報酬改定を行った際に 40 万人から 50 万人の中核市と比較し改定を行った。

現在は 13 市の中で人口は 10 番目の規模で、議長は 8 番目、副議長は 7 番目、議員は 5 番目である。

(会 長)

事務局の説明、前回の資料の内容も含め、意見をいただきたい。

(委 員)

個人的には給料、報酬は上げた方がいいと感じているが、他市や近隣の市町村とのバランスもあり難しいと思う。議員数は多いので総額で見ると 13 市の中では一番多いことも踏まえると、今数字を見るだけでは妥当かと。

(会 長)

都市の事情もあるかと。西宮市は神戸市と大阪市に挟まれて水準が高いということももしかしたら反映しているかもしれない。事務局は何か気付く点はあるか。

(事務局)

関西方面は、高いところ高くはないところはつきりする傾向がある。

(会 長)

中核市も多様化が進んでおり、同規模の中核市の比較は参考にしてもらえればと思う。議員の職責、日常活動等でどういう形で市政に関わっているのかが判断材料になる。それらを含めて意見をいただきたい。

(委 員)

地元の市議会議員はいろいろな行事に参加したり、個人の要望もよく聞いてくれている。工事申請箇所も見てくれている。特別職と比べると差があり、近隣の岐阜市と比べると少し見劣りするのかなと思うので、人事院勧告なみくらいのアップはしてもいいかと思う。

(委 員)

前回特別職は据え置きで、議員を上げる理由があるのかというのはあるが、プライベートの時間もないことを踏まえると少し上げてもいいのかなと。特別職は高いが、議員はそうではないとなると、もう少し合わせてもいいのかなと思う。

(委 員)

上げれるなら上げればいいと思っていたが、一人の金額で見ると13市中8番、7番の順位ではあるが、定数が多く総額で見たら1位になるので、このままでもいいのではと思う。ここで議論するものではないが、市議会議員の定数に関して議論の必要があるかと。

(会 長)

市民感情からすると年収も見られるということはやむを得ないので、それらも勘案をして判断していただきたい。中核市全体では4分の1前後で上位にいるから、全体として見れば低いわけではない。中核市の数が増えたから上位にあるという見方はあるが、40万から50万人の中核市と

比較しても真ん中くらいの位置であるので、どう評価するかというところである。議員の職責、活動を見ると、非常に多忙で、地域の細かなニーズを吸い上げて、議会あるいは行政部に伝えるという大きな役割、立法に関わる大きな役割があるので、そういう面も踏まえて審議いただきたい。

(委員)

年収ベースで考える時に、期末手当はどのような形で決まるのか。

(事務局)

期末手当に関しては、議員は基本定額である。月額は何ヶ月分というのは条例で決まっていて、特別職も同様である。今現在期末手当が1.65月が2回で3.3月で、12月議会で3.4月に引き上げになる予定である。

国の動きに合わせて人事院勧告に倣う形で支給率を合わせている。民間の賞与に合わせて変動していくものである。

(会長)

月額報酬を上げれば、連動して期末手当も上がるので、月額報酬を上げないと全体としては上がらない。地域手当はつかないので、そこをどう考えるかということもある。

(委員)

近隣の市町村も今年3.4月に上がるという話は一緒か。

(事務局)

そのとおり。ほぼ一緒である。

(委員)

毎年上がるかどうかは人事院勧告によるのか。

(事務局)

そのとおり。景気の変動に合わせてである。

(委員)

岡崎市と豊橋市と比べると高いので、上げた方がいいのではという声が小さくなってしまふ。

(会 長)

愛知県内の中核市それぞれ事情があるので、岡崎市豊橋市に比べて高いのはそれだけおかれている事情が大きいのではと思う。

(委 員)

民間企業の給与も違うのでなんとなく理解はできる。岐阜市が高い状況である。

(会 長)

一つの推測であるが、岐阜市においては、県庁市としての自負心もあるのではないかと。政令市がないので、意識を持って維持されているのかと。

(委 員)

議員から不満や意見はあるのか。議員自身の持ち出しが多くなるとか、十分であるとか。

(事務局)

今の段階で上げてほしい、下げてほしいという話は聞いていない。

(会 長)

自分から給料を上げてほしいというのは言いづらいところもあり、だからこそこの審議会がある。最終的には議会での議決を要するが、この審議会の答申が尊重されるので、現在の報酬額が議員の職責、活動に見合っているか否か、豊田市がものづくりの中心であり民間の給与水準が高く経済活動が活発であることもあり、単純な比較は議論があるところではあるが、他市との比較を踏まえて検討してほしい。

(委 員)

感覚にはなってしまうが、年収 1,000 万円は一般企業だとどれくらいのポジションなのかなと考えたり、日本の所得水準の 1,000 万円超えはわずか 4%であることを踏まえると、40 万都市の議員であるので、もう少しあってもいいのかと。次の選挙も考えると使いたくても使えないお金である話も聞いているので、もう少しあってもいいのかと思う。豊田市の市議会議員の年収が低いと立候補する人も減ってしまう可能性もあり、名誉職かもしれないが、苦勞もあり、特別職に比べると低いというのも抵抗感もある。

(会 長)

議員の普段の活動を知れば知るほど報いてあげたい気持ちもある反面、上げることによって、他市との比較の中で突出するわけにもいかないというところはあると思う。本日欠席の委員から何か聞いているか。

(事務局)

中核市 62 のうち、人口順位で 17 位であるので上げるのは難しいと思うが、近隣の岐阜市を見ると、豊田市より人口も少ないが報酬額が豊田市より高いため上げられる一つの考え方になる。といただいている。

(会 長)

方針の決定に入りたいが、追加の意見等あるか。各議長、副議長、議員について決定をとるか、一括の方がいかがか。

(事務局)

補足で、前回報酬を上げた時の根拠として、人口同規模中核市の平均との差を見て上げている。同じ考え方で見ると人口同規模中核市の平均と同じか少し上くらいであるので、前回と同じ理由で上げるのは適用しづらいので、上げるとなるとどの辺をベースにして上げるのか、据え置くのか、下げるのかを審議していただきたい。

(会 長)

人口同規模中核市の平均値をいずれも上回っていることは確かである。

(委 員)

すごく微妙なせめぎ合いで心情的には上げたいが、審議会に参加している我々が言っていることと、一般市民が納得するだろうか考えると悩ましい。審議会は毎年あるのか。

(事務局)

2年に1回である。

(委 員)

今据え置くと来年は審議会はない。人口同規模中核市の平均値と逆転する可能性もある。具体的にどうしようかというときに悩ましい。前回上げたときは何千円か、何%か。

(事務局)

人口同規模中核市の平均の額のそろえるということで何千円単位で上げた。

(委員)

人口同規模中核市の平均より上だから難しい。

(委員)

人事院勧告による 1.06%でもいいかと思う。

(委員)

民間はベアを上げるラッシュで、製造業の給料も上がっている。毎年上げていく状況は近年続いているのが実態であるので、据え置きでは今の市場からすると守りすぎていると思うが、どれだけ上げるかというのはまた難しい話ではある。

(会長)

コロナで経済の打撃も受けている。円安もあり苦しいところではあるが、日本の経済を底上げしていくのか、働く方々の給料を上げるのか、将来に対する生活防衛もあるが、将来に対して希望が持てるよう、議員の場合だと地域作りにより関わっていただくときにどう考えるのかというところがある。

特別職は現在トップでさらに上げる理由が見出しがたいということだったが、特別職等の職責に見合ったものの額として考えると心情的にはなんとかならないかという意見はあった。議員の場合は、多少の議論の余地はある。今後の経済の見通しがどうなっていくかということもあるが、市の財政状況は悪いわけではないので、どう考えるか。今年度の市税収入は増えそうか。

(事務局)

法人市民税の国税化もあり、今後はなかなか税収が見込めず、厳しくなっていく状況かと思う。

(会長)

財政基金は積み増ししてきているのか。リーマンで減ったと思うが。

(事務局)

減ってはいたが、余剰金は積んでいるので全然ないことはない。ただこれから苦しくなってくることは間違いないと思う。

(会 長)

議論も出尽くしたようだが、追加の考えや意見はあるか。議長、副議長、議員の個々ではなく、一括で決定をしようと思うがいかがか。

—特になし—

(会 長)

議員の報酬額について方針を決定する。方針については、「報酬額の引上げ改定を行う」「報酬額の引下げ改定を行う」「報酬額を据え置く」のいずれか一つであろうかと思う。委員の皆様の考えを挙手にて確認し、賛成多数となったものを本審議会の方針とする。

(会 長)

「報酬額の引上げ改定を行う」ことが妥当であると考えの方は挙手をお願いします。

—挙手 4 名—

(会 長)

「報酬額の引下げ改定を行う」ことが妥当であると考えの方は挙手をお願いします。

—挙手 0 名—

(会 長)

「報酬額を据え置く」ことが妥当であると考えの方は挙手をお願いします。

—挙手 1 名—

(会 長)

「報酬額の引上げ改定を行う」が 4 名、「報酬額の引下げ改定を行う」が 0 名、「報酬額を据え置く」が 1 名であるため、議員報酬については「引上

げ改定」と決めさせていただく。

どの程度上げるか、時期については何か意見、提案はあるか。

(事務局)

何を根拠に、上げるとしたらどの程度かの意見をいただきたい。

(会 長)

次回までに事務局に案を作ってもらうが、こういったことを勘案して検討いただきたいということで何かあればと思う。

(委 員)

令和5年人事院勧告の1.06%に準ずるのはどうかと思う。

(会 長)

そこも一つの考えかと。あとは同規模中核市と比較して勘案するという意見もあろうかと思う。

(委 員)

岐阜市は人口が豊田市より少ないけど報酬額が高いので、岐阜市レベルまで上げてもいいかと。3%くらいかと。

定数が40とかであればもっと上げてもいいかと思うが、定数が妥当なのかどうかの議論はしてほしいと思う。

(会 長)

当審議会の審議の範囲を超えてしまうが、豊田市のおかれた条件が影響しているのかと思う。平成の大合併で市域が拡大して都市部と農山村を構成する自治体という事情も考えると議会の見識としてこういう形もあるのかなとみてとれる。東海圏の中の中核市で豊田市の状況を反映して引上げということで検討いただければと思う。

本日の審議会の意見として、市議会議員の報酬額は引上げが妥当であると方針を決定。引き上げる金額と改定する時期については、次回事務局案を基に審議させていただく。

3 市議会議員の政務活動費について

(会 長)

引き続き政務活動費について議論する。事務局より資料の説明をしてもらいたい。

(事務局)

(1) 政務活動費とは

議員の政策形成能力の向上及び市議会の審議機能の強化を図るため、議員の調査研究その他の活動に必要な経費の一部を補助するものである。

(2) 政務活動費の額

議員 1 人あたり 60 万円を支給している。

平成 13 年 4 月時点では 38 万円であったが、平成 25 年 4 月に 53 万円に引き上げ、平成 31 年 4 月に 60 万円に引き上げられている。

(3) 執行状況

令和 4 年度の執行率は 54.8% (コロナ禍で活動が制限されている状況下である)

(4) 中核市における比較

中核市の平均は 1,062,806 円、49 位となっている。

比較的下位ではあるが、活動するベースとなる事務所やパソコンなどの経費は活動費以外で賄われている部分もあり、単純に比較は難しい。

(5) 議会の役割

行政の仕事の監視機能、政策立案、予算・決算の認定、分担金の賦課徴収や契約の締結等重要事項の決定などがある。

(6) 議員の活動

議会の議決や直接法律で規定されている項目以外に、市民とのシンポジウムを行ったり、研修会への参加等も活動に含まれる。

本会議に付随する活動として、議案の精読、調査、視察、研修への参加もある。

冠婚葬祭への出席や後援会の活動は個人の活動であるため、その費用は政務活動費としてみない。

(会 長)

事務局の説明に対して、質問、意見等はあるか。

(委 員)

直近の執行率は分かるか。

(事務局)

今年度は、コロナ前の令和元年程度の活動には戻っている。令和元年度の執行率は人数の多い会派で見ると執行率は96%くらいである。

(委 員)

例えば9月末、10月末の執行率は分かるか。

(事務局)

政務活動費については年間いくらか分かっていて、定例会や事業の合間に計画的に活動しており、現時点で足りなくなったという話はない。

(委 員)

年度末で全て使ってしまうとか、極端な使い方がされていないか、実際どのように使っているのかを聞きたい。

(事務局)

数字として示すなら次回になるが、基本的には年間を通して計画的に使っている。

(会 長)

例えば9月末あたりまでの執行状況等を把握できる資料を示していただければと思う。政務活動費の内訳のまとまったものはあるか。

(事務局)

会派によって違ってくるが、一番人数の多い会派で説明をすると、調査研究費は先進地視察に使われており、7割、次に多いのが旅費が多くを占める研修費で1割、同じく旅費が多くを占める要請・陳情活動で1割。以上が大きな上位3つの活動である。会派によって方針が違うので、次回使途の割合等を示す資料を提示したい。

(会 長)

各会派の政務活動費の内訳をお願いしたい。コロナ禍においては、研修等実施できなかったということで執行率が落ちていたのは当然のことかと思うし、今年5月に2類から5類になって、今年は比較的コロナ前の状況に近い状況だということで執行率も96%くらいまで戻る可能性が高いということである。詳細は次回資料をお願いしたい。

(委 員)

1人60万円は一議員に与えられた予算であるか。

(事務局)

会派を組んでいるところは、会派に人数掛ける60万円という形で年1回当初に支給している。会派を組まない個人の諸派は、個人へ60万円を支給という形をとっている。

(委 員)

1人で60万円以上を使う可能性もあるのか。

(事務局)

会派の利用の仕方にもよるが、基準はそれぞれの会派で定めている。

(会 長)

会派を組まれているところは、会派の会計責任者を通じて支出をする仕組みか。

(事務局)

そのとおり。役割があり、しっかり管理されている。

(委 員)

余った残金はどうなるのか。

(事務局)

年の当初に支給して、余りがあれば戻してもらう形である。

(委 員)

支出の項目で何か議員からこういう事実を認めてほしい等意見はある

か。

(事務局)

ないことはないが、この地域は比較的政務活動費の使途に対して関心が高く、しっかり説明ができるものしか使途として取り決めていない。条例に使途基準があり、記載のないものは除いている。

(委員)

その使途基準に挙げてほしいという要望はあるか。

(事務局)

いろいろな話はあるが、今のところは政務で使った内容以外のものは認めない形をとっている。個人的な使用か政務の使用かグレーな部分は排除している。

(委員)

豊田市は政務活動費少ない方であるが、市によって支出項目は様々か。他の市は認めていて豊田市は認めていないとかあるか。

(事務局)

事務費や人件費、個別のパソコンをそれぞれ用意する、それらを政務活動費に使っていい割合は何%であるということを決めて支出しているところもある。豊田市はその部分は出しておらず、パソコン等は提供している。通信費はIT化が進む中で、聞かれることはあるが、明確に使途が区切れるか分かりづらい部分もあり今は対象外としている。時代とともに、政務活動費の中で使いたいものがあるような声が出てくるかと思う。

(会長)

具体的な使途基準を設定され、支出についても監査も行っているのか。

(事務局)

領収書も含めて、こういった使途に使われているかチェックをしており、公表している。

(委員)

現在議員1人60万円を支給した時に、足りないという意見はあがって

いるか。

(事務局)

使途の中に旅費があり、旅費が多くを占めているが、物価上昇をみて、少しホテル代が高くなっている状況はあるが、定めている旅費の中で運用ができています。

(会 長)

海外の場合も同様か。

(事務局)

旅費の規定は職員の旅費規程を準用していて、それを踏まえると対応ができています。

(会 長)

飛行機はエコノミーで新幹線も普通車か。

(事務局)

特別職と同様で新幹線はグリーン車、飛行機はビジネスである。

(委 員)

ビジネスだと足りないと思う。

(事務局)

海外視察については回数を増やして行くわけでもないので、政務活動費の中で工面している。

(委 員)

オーバーした分は自分たちで払うことはあるのか。

(事務局)

あるかと思う。

(委 員)

旅費のアップ率、宿泊のアップ率、相場が上がっているのかを参考にしたい。政務活動費を上げるか上げないかも旅費が増えていて、加味するな

らどの程度上がっているのかを参考にしたい。

(事務局)

議員も職員の旅費規程に準じているので、本来あるべき旅費規程がいくらかということに派生するかと思う。

(会 長)

基準がないと設定できないというのはあるので、旅費規程が基準になっている。

物価も変動しており、限られた額を使っている。

(委 員)

視察や研修に行った場合は、報告書は出ているのか。

(事務局)

必ず報告書を作っている。

(委 員)

一般市民も見れるのか。

(事務局)

市民相談課の情報コーナーで公開している。

(委 員)

余ったものを返すのであれば多少上げてもいいが、次回資料を見て判断したい。

(委 員)

議員から要望がありそうだが。

(事務局)

旅費の状況について確認してほしいと指示は受けているが、今の中でやりくりできていると判断していると回答している。旅費は議員ともやりとりをしていて、今の段階では了解を得ている状況である。

(会 長)

本日欠席の委員から意見はあるか。

(事務局)

世の中も物価上昇の流れで出張等の経費としてみると気持ちとして少し上げてもいいのかなと思う。といただいている。

(会 長)

委員会の中で共有されているところであり、次回そういったところに基づいて議論させていただきたいと思う。追加の意見等あるか。

—特になし—

(会 長)

議員報酬についての素案を事務局から提示いただき、政務活動費については、さらに審議を行い、決定まで至りたいところである。

本日の審議はここまでとさせていただきます。

【審議終了】